

エリア別・ポテンシャルシート



①自然・散策ゾーン



現状・特徴

- 菖蒲園は池を埋め立てて湿地園としてつくられた。菖蒲は1975年に明治神宮より35品種・350本の株分けを受け、植えられた。
- 現在は約80種・5万株の菖蒲が植えられている。
- エリアごとに、桜やアジサイ、ラクウショウなど、様々な樹木が植樹されている。
- 樹木に番号掲示がされているが、樹木の名前は分からない。
- ニセアカシアなど外来植物の姿も見られ、どのような植物が繁茂しているか現時点ですべて把握できていない。
- 菖蒲園内にはビオトープがあり、多様な生き物が生息していると思われる。
- 春日池横のベンチは、朝日と夕日が当たるように工夫されており、眺めが綺麗。ただし、ベンチにテーブルは設置されていない。



①春日池横のベンチ
朝日と夕日が当たるようになっており眺めが綺麗。ベンチにテーブルはない。



②菖蒲園
花の咲いていない季節は草が繁茂し、自然豊かな環境となっている。



③菖蒲園
岩場と水辺のビオトープが形成されている。



④菖蒲園
花が咲く季節は多くの方が花を眺めに訪れる。



⑤健康遊具
ウォーキングの途中で気軽に運動ができるよう健康遊具が設置されている。



⑥桜の広場
桜の咲く季節はレジャーシートを敷いて花見を楽しむ人の姿が見られる。



⑦桜の広場
桜の咲く季節以外は、過ごす人の姿はあまり見られない。



⑧園路
多様な草花や生き物など自然感じながら、園内を周遊することができる。

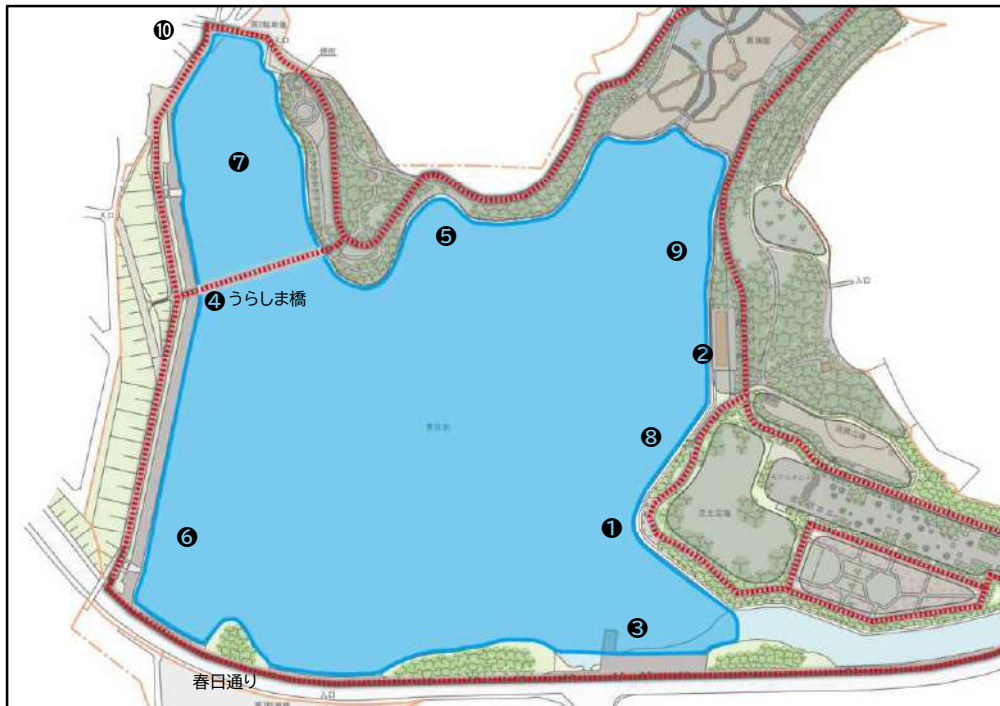


⑨園路
手入れが必要な樹木や、部分的な舗装のたつきが見られる。



⑩樹木の番号表示
表示(番号)が設置されているが、この表示だけでは樹木の種類までわからない。

②春日池



現状・特徴

- 江戸時代に灌漑用水用のため池として造成されたのがはじまりで、現在も農業用水として利用されている。江戸時代に作られたウテビ(水量を調整する構造物)が一部残っている。
- 2005年～2012年にかけて浸水被害を軽減するため、池底を3m深くする掘削工事が行われた。
- 鳥や魚、亀など様々な生物が暮らしている。
- 公園面積15.6haのうち、半分以上の8.3haの面積を占める。
- 公園造営時には、宇部市の常磐公園から贈られた白鳥が住んでいた。
- そばにあるベンチでポーッと池を眺められる。
- ゴミが浮いている。
- 池の近くまで行くことができない。



①芝生広場付近からの眺望
日光にきらめく水面や木々の緑、うらしま橋など綺麗な眺めが望める。



②パーゴラ
春日池を眺めるパーゴラ(日よけ空間)があるが、テーブルは設置されていない。



③春日通り
春日池により、交通量の多い道路(春日通り)との間に良好な距離感が保たれている。



④うらしま橋
春日町浦上と能島を繋ぐことから、「うらしま橋」と名付けられた。



⑤水際空間
池と園路との間の空間。立ち入ることはできないが、野鳥が羽を休める姿も見られる。



⑥堤防
浸水対策のために2012年に強化整備された堤防の法面は緑化されている。



⑦放水口
貯水機能を持つ春日池が放水量を調整するための設備も見ることができる。



⑧水質
水の濁りや、水際等にはゴミが浮いている状況が見られる。

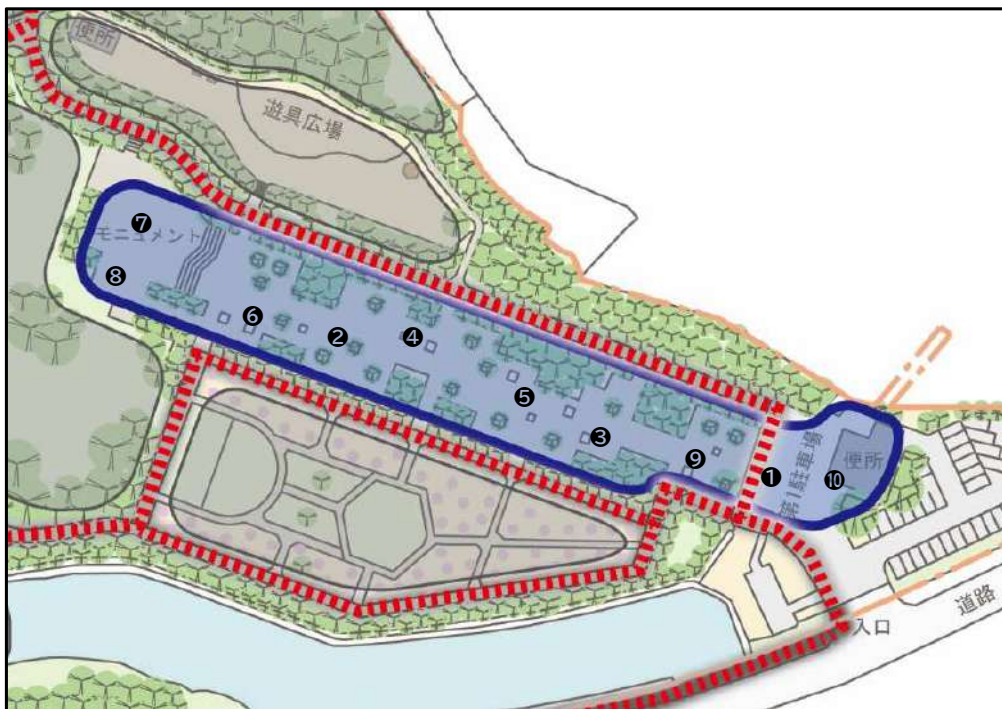


⑨園路からの眺め
春日池を周遊する園路があり、色々な角度から春日池の風景を楽しむことができる。



⑩ウテビ
江戸時代につくられたウテビ(水量を調整する構造物)を今でも見ることができる。

③中央広場



現状・特徴

- 広場的な使い方ができる園路としてつくられた。
- 一種の屋外美術館のようなイメージも持たされている。
- モニュメントは人が語らいの場となることを期待して作られている。
- 草がぼうぼうとなっている。
- 花壇に花が植えられていない。
- モニュメントの作品の説明がない。
- ベンチが老朽化してぼろぼろになっている。
- タイルが部分的に剥がれている場所がある。
- 管理事務所が有効に活用できていない。(現在は公園の清掃等を行う事業者の倉庫・休憩所として利用している。)



①公園のエントランス
公園の正面入り口から最初に見える景色で、奥にはモニュメントが見える。



②舗装
舗装は石畳調のタイル張りで美術館調の雰囲気演出されている。



③植栽樹
随所に植栽樹がつくられており、草が繁茂している。



④ベンチ
休憩のためのベンチが置かれているが、老朽化したものも見られる。



⑤花壇
段差を持ちながら花壇がつくられ、花壇際には座ることもできる。



⑥ポケットスペース
不整形に花壇や植栽樹が作られていることで、様々なポケットのような空間がある。



⑦モニュメント「太陽の滴」
広場の先に、杭谷一東氏により制作されたモニュメントが設置されている。



⑧モニュメント「太陽の滴」
モニュメントは近くまで立ち入ることができる。



⑨植栽樹
一部の植栽樹には砂利が敷かれ雑草が生えないようになっている。



⑩管理事務所
トイレが併設された管理事務所は、管理者の休憩所・倉庫として利用されている。

④芝生広場



現状・特徴

- 軽い運動も行えるなど、春日池公園の中で一番活動的で自由に使える場所として作られている。
- 春日池を眺めるロケーションがとても良い。
- せっかくの自由に使えるスペースを十分に生かしきれていない。
- 芝生や雑草が長くなっている。
- 健康器具が設置されているが、使い方がわからないとの声も聞かれる。



①自由に使える空間
遊具等も設置されず、公園の中で最も自由に使える空間となっている。



②座れる石
随所にちょっと座れる場所として石が置かれている。



③春日池の眺め
広場でゆっくりと過ごしながら春日池を眺めることができる。



④木かけ
周囲には大きな樹木が植えられ、木かけを作り出している。



⑤園路との緩衝空間
園路など周囲との間に樹木が植えられ憩いと移動の緩衝空間となっている。



⑥芝生
座る・走る・寝転ぶなど、芝生は様々な過ごし方ができる。



⑦樹木
部分的に老朽化した樹木が見られる。



⑧健康遊具
園路沿いに健康器具が設置されているが、使い方がわからないとの声も聞かれる。



⑨芝生の管理
季節によっては、芝が長く伸びすぎ利用しづらい時期もある。



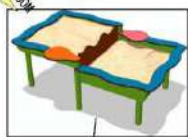
⑩モニュメントとの一体感
モニュメントと広場の自然が違和感なくつながり一体感が形成されている。

⑤冒険の国



現状・特徴

- 隣接するニュータウンえびす公園と合わせて利用できる場所、遊具で遊べる場所としてつくられた。
- 新たにインクルーシブ遊具が整備される。(2024年春 完成予定)
- 子どもが遊びやすく、ベンチで大人も休むことができる場となっている。
- ベンチや日陰の数が少ない。(2024年春 増設予定)
- 段差や砂っぽい地面で、車いすやベビーカーが使いにくい。



②子どもたちの場所
複数の遊具や砂場が整備され、子どもが自由に遊べる場所になっている。



③ベンチ
保護者が座れるベンチもあるが、数が不足しているという声も聞かれる。(増設予定)



④トイレ
トイレが近接して設置してあるが、古くて使いにくいとの声も聞かれる。



⑤砂地の地面
現在は砂地の地面になっており、車いす等での通行が難しい。



⑥園路
近くまで自然の空間がつけられているが、手入れが行き届かず進入禁止となっている。



⑦広場入口
注意喚起の看板が設置されているが、漢字にフリガナがないので小さい子どもには読めない。

①インクルーシブ遊具
障がいを持つ子どもも、持たない子どもも一緒になって遊ぶことができるインクルーシブ遊具が新たに整備される。

⑤冒険の国

(参考資料)インクルーシブ遊具の整備計画案

8連ブランコ



砂場スタンド



ループローラー



ホットポット



ダブルホッパー



シェルターバーゴラ (3基)



くるくるパトロール (移設1基)



スプリング遊具 (移設4基)



汽車型遊具 (移設1基)



複合遊具①



複合遊具②



砂場



凡例

土系舗装 (ガンコまさ)

ゴムチップ舗装 (t=4cm)

移設ベンチ①~⑥

⑥ばら園(花の広場)



現状・特徴

- 第2のばら公園を構想しながら、西洋風の庭をイメージされている。
- 42品種・2,300本のばらが植えられている。
- ばらの名前の表示も設置されており、多様なばらが植えられている。
- 枯れ木が多い印象がある。
- 藤棚は蔓が垂れているなどしているため、入りにくい。
- ベンチが少ないのでゆっくりできない。



①西洋風の庭
西洋風の庭をイメージして作られたばら園全体を眺めることができる。



②2,300本のばら
シーズンには2,300本のバラが咲き誇る様子を楽しむことができる。



③ばらの管理
市職員や委託業者により、ばらの剪定や除草などが行われている。



④園路
ばら園内をウォーキングのコースとして利用する人も多くみられる。



⑤藤棚
中央広場側には藤棚のトンネルがつけられている。



⑥駐車場側からの入口
入口側にもばらが植えらればら園の存在が分かりやすくなっている。



⑦舗装
ばら園内の園路は、ばらの色が生える土系の舗装となっている。



⑧段状の花壇
ばらを立体的に楽しめるように段状の花壇になっている。

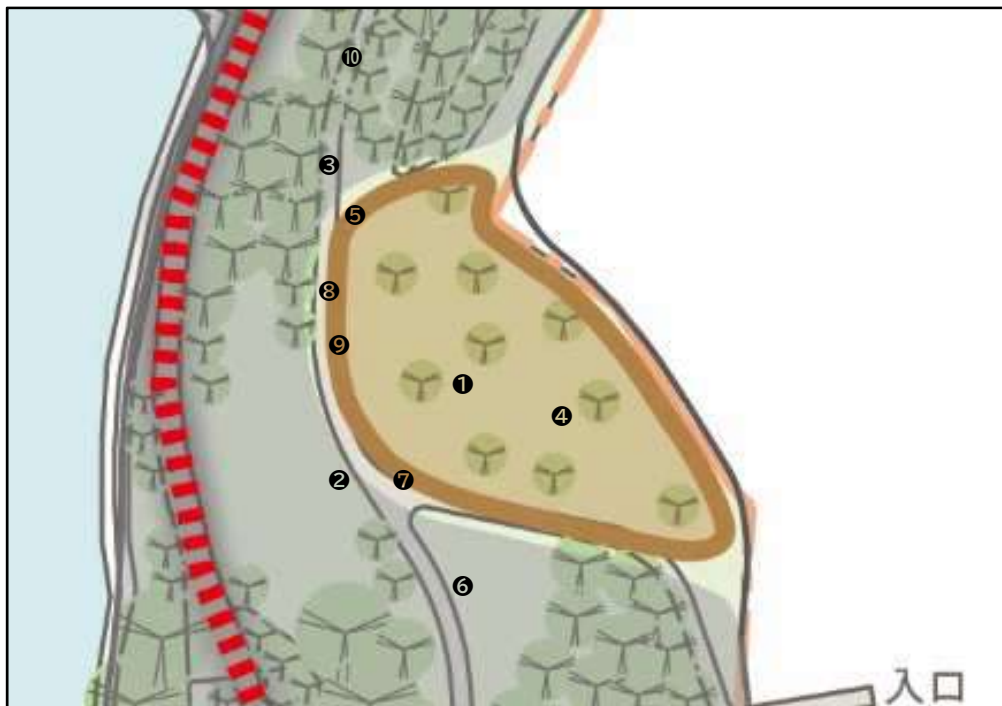


⑨管理
ばらの季節以外は、花壇内は雑草が伸びた状態になってしまっている。



⑩藤棚の入口
藤棚の入口は蔓が垂れてきており、トンネルに入りづらい印象を与えてしまっている。

⑦ばら園(四季の森)



現状・特徴

- 緩やかな法面として春日池を展望できるスペースとしてつくられた。
- 21品種・1,000本のばらが植えられている。
- 木が伸びており池を眺めることができない。
- 花の広場と比べて、ばらが少ししか植えられていない。
- 人にあまり立ち寄られていない。
- 案内板がなく、園路もガタガタになっていて行きづらい場所になっている。



①1,000本のばら
ばらの季節には1,000本のばらが咲き、ばら園(花の広場)とは趣きが異なる。



②アクセス
丘となっており、登り坂を上がった先に見えてくる景色の移り変わりを楽しめる。



③花壇
シーズン以外は草がのびてしまっている。



④ベンチ
丘の上から春日池を眺める設計であるが、樹木が伸び、現在は池を望むことができない。



⑤園路
分かれ道がつくられ、歩きながら楽しむことができる。



⑥自然(どんぐり)
園路沿いにはどんぐりがたくさん落ちており、ちよとした広場のようにになっている。



⑦ばらの手入れ
シーズン以外も、ばら園部分は手入れがなされている。



⑧利用者
ウォーキングや犬の散歩で訪れる人が多く、座って過ごす人はあまり見られない。



⑨静かな雰囲気
時間帯によっては人があまり立ち寄らないため静かな時間が流れている。



⑩園路
路面がガタガタになっており、通行しにくい状態となっている。